



「よりよい未来のために」

仁愛女子高等学校 2年 坪川 穂香

「世界を知る」というテーマだけをきくと、テレビ番組などの企画でよくあるような文化の違いを明るく楽しく紹介している場面を思い浮かべます。それはアメリカやヨーロッパなどの先進国からアフリカの民族まで様々ですが、私たちがテレビの画面を通して見ているのは彼らの生活や文化のごく一部にしか過ぎないのだとも思います。

例えば、ある日私が見ていたテレビ番組でアフリカのとある民族が全裸に近い伝統のある格好で生活したり踊ったりしているところが紹介されていました。その番組だけを見れば、その民族はまるで常に全裸に近い伝統のある格好で生活しているように思えました。しかし、その民族は普段、Tシャツにジーンズというありふれた格好をしており、伝統の格好をするのは、記念日やメディアの取材が来た時だけのようなのです。この事実を知った時、情報の一面性を感じ、世界を知ることは簡単ではないと思いました。

また、世界を知らないで世界のために何かしようとする事の愚かさを痛感したこともあります。もちろん、世界のために何かしようとする能動的に活動できる人ってすごいと思うし、それって大切なことだとも思います。しかし、無謀に思いつきだけで活動するのではボランティアではなく、迷惑になってしまうというのが現状です。

これは、ある一人の発展途上国の援助に力を注ぐ女性の方がお話しになっていたことです。南アメリカ大陸の国の中には、国の大半が高地で一年を通して涼しい気候のところもあります。しかし、そのうちのある地方では衣類の供給が足りていませんでした。なのでその女性は日本人の人人々にインターネット等を通じて古着を募集しました。そこには条件として暖かく動きやすいものと明記されていたと言います。呼びかけの甲斐があっただけ、多くの服が送られてきました。そのおかげで、その国の多くの人が救われました。しかしその裏ではたくさんの服が捨てられていたそうです。個人的なイメージで南アメリカは暑いと思込み薄い服を送ってきたり、可愛い服を着させてあげようと思ったのかヒラヒラの破れやすそうな服を送ってきたりする人たちがいたようです。みんな親切心で行ったはずなのに、世界を知らない、その地域に対する知識不足という理由だけで、彼らが行った活動はボランティアではなくなってしまったのです。これって、した側にとってもされた側にとってもすごく悲しいことだと思いました。

私は、知識不足で親切が親切ではなくなるという事例は身近なところでも起きているように感じます。最後まで人の話を聞くことや、一方の面からだけ物事を見ようとせずいろんな方面からの視野をもつだけで、そのような事例は大幅に減ると思います。世界の未来のためにすべきことを考えると地球温暖化を止めるために新しいエネルギーを考案することや世界平和のために核兵器を失くすことなど、私たちのような子供では到底手をつけられないようなことがある一方で、偏見を持たないようにすることや相手の気持ちを思いやる心を持つようにすることなど、一見すると世界のためでないようだけれど実はとても大切なこともあると思います。地球温暖化防止のために節電を呼びかけたり、国際力を高めるために英語教育に力を入れたりするのも、よりよい世界をつくるためには必要なことかもしれませんが、近年よく問題となっているいじめをなくしたり人として大切なことをきちんと学んで、後世に伝えていくことが何よりも大切なのではないかと思います。